

# 令和3年度 自己評価計画書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 個々の進路実現のため、ICT機器の利活用を進めながら主体的・対話的で深い学びや個別最適化された学びを表現する授業実践に努め、学習意欲の向上や学習習慣の定着、課題を発見し解決できる力の育成を図る。	① 校内で全ての教員が研究授業・公開授業を行い、授業参観や校内での研修を通して、タブレット等のICT機器を効果的に活用した授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	全教員が公開授業または研究授業を行った。昨年度の結果は63%であったが、生徒用タブレットを用いた教員が昨年度より増加した。タブレット等のICT機器を効果的に取り入れた授業改善を行い、わかりやすく魅力ある授業づくりに取り組んでいく。	【努力指標】 年間を通し、タブレット等のICT機器を効果的に活用して、よりわかりやすい授業実践を継続的にしている。	GIGAスクール構想の趣旨を理解し、タブレット等のICT機器を効果的に活用した授業改善を積極的に行っていると答える教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(教員によるアンケート)
	② 主体的・対話的で深い学びの実現のために、ペアワークやグループ学習など言語活動による協同学習を取り入れた授業実践を学校全体で行う。	教務課 各教科	多くの授業で、生徒が他の生徒と話し合ったり、自分の考えを発表したりする場面が見られるようになった。これらの成果と課題を活かし、より発展的な内容になるよう継続して取り組んでいく。	【努力指標】 各教科で主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践を行い、その成果を全教職員で共有している。	ペアワークやグループ学習など言語活動による協同学習を充実させた授業が実践されていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。(生徒による授業評価アンケート)
	③ 生徒が授業以外で学ぶ習慣を身につけるために、ICT機器を活用して学校外で学習する予習・復習のための課題の提示や、定期テストなどと結びつけた計画的な学習指導を行う。	教務課 各学年 各教科	学習時間が1時間未満の生徒の割合が59.6%であった。まずは、1時間未満の生徒に学習する習慣をしっかりと身につけさせることが喫緊の課題である。自己実現を目標に学ぶことの楽しさを体感するような授業の実践とICT等も活用して学校外でも学習しやすい環境整備に取り組む。	【成果指標】 各教科でICTを活用して計画的に課題を与え、その提出を徹底させる。放課後学習や自己実現のための学習を含めた授業以外の学習時間の確保を図る。	平日の学習時間(授業以外)が1時間以上であると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(生徒によるアンケート)
	④ 計画的なキャリア教育を行うとともに個人面談を継続的にを行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう支援を行う。	進路指導課 各学年	昨年度の結果はコロナの影響で外部人材を活用したキャリア教育の行事を行えなかったため、今年度実施する。「総合的な探究の時間」とも連携して、生徒が自らの進路について考える機会を多く持たせたい。	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が、探究的に行われ、生徒が主体的に学べるよう計画的かつ効果的に機能し、進路目標が明確化している。	本校でのキャリア教育が、生徒の主体的な活動をとおして意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(生徒によるアンケート)
2 ② 挨拶や時間、服装容儀などの指導を通して基本的な生活習慣を確立するとともに、外部人材も活用して協調性やコミュニケーション力を身につけ、豊かな人間性と社会性を育む。	① 全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させる一方、保護者との連携を図りながら遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。	生徒課 各学年	昨年度は14.1%で遅刻常習者が増加した。生活リズムの見直しを含めた徹底した遅刻指導、保護者との協力的体制構築などの取り組みを継続し、遅刻常習者の行動改善に繋がる取り組みを行っていく。	【成果指標】 年間を通じて遅刻5回以上の生徒の割合が令和2年度を下回るようにする。	年間を通して遅刻5回以上の生徒の割合が A 10%以下である B 12%以下である C 14%未満である D 14%以上である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に調査する。
	② 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察する。また、いじめ等の問題には早期にいじめ問題対策委員会(対策チーム)を中心に全教職員で連携し、解決にあたる。	生徒課 教育相談室 各学年	前年度は重大事案につながるようないじめはなかった。全体的に落ち着いてはいるが、大きな問題に発展しそうな人間関係のトラブルも散見されるので、今年度も初期指導を強化し、問題を未然に防ぐ努力をしたい。	【満足度指標】 全職員が共通理解し、いじめ等の問題に迅速に対応し、生徒が安全で安心して学ぶことができる教育環境になっている。	各課・学年と連携がとれて、いじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と組織的対応がとれたと答える教員が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(教員によるアンケート)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
3 学校の魅力をさらに磨き、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進するため、校種間交流や地域と連携した取り組みを積極的に行うとともに、広報活動を充実させる。	① 地域及び小中学校、大学等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	積極的なホームページの更新により、全般的に学校の様子を外部に配信できている。メール配信登録率は高くなったが、学校からの通知や配付物の周知に関しての対応徹底が必要である。	【満足度指標】 各コースの特色を活かした地域や小中学校、大学等との交流活動等について、その取り組みや内容を保護者等にしっかりと伝え、活動への参加協力体制を築く。	各種の交流活動が活発であり、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。（保護者によるアンケート）
	② 地域や小中学校、大学等との交流事業、学校行事など、本校の特色ある教育活動の様子をホームページを通して積極的に外部に発信する。	総務課 各コース	ホームページの更新回数は教員間で差が大きかった。学校行事に関しては、担当分掌による更新が適切に行われているが、部活動に関しては全般的に低調である。	【努力指標】 各行事が終了するごとに情報の更新を速やかに行う。部活動に関しては各学期ごとに最低1回は更新することを目安として取り組む。	所属する課や学年、部活動等のホームページの更新回数は年3回以上であると答える教員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。（教員によるアンケート）
	③ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開し、地域の方々と積極的に関わる機会を増やす。	生徒課 各学年	令和2年度は、コロナ禍の影響を受け、生徒会、部活動、音楽専攻、美術専攻の生徒を中心に近隣の学校や施設を訪問することができなかった。この状況が続くならば、オンラインの活用など、施設に訪問しないのできる活動を、生徒とともに考え実施していきたい。	【成果指標】 生徒の地域の方々と関わることに 対する意識を高めるとともに、年間を通して近隣地域での各種ボランティア活動に可能な方法で取り組む機会を提供する。	近隣地域での各種ボランティア活動に複数回参加した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。（生徒によるアンケート）
	④ 地域の方々と保護者とともに 行う行事の中で生徒一人ひとりが 充実感・達成感を得られるよう 生徒自らが主体的に企画・運営する。	生徒課 各学年	辰巳祭等の行事後のアンケートではほとんどの生徒が積極的に参加したと答えている。他の行事や活動にも生徒自身が企画・運営する場面をつくり、充実感や達成感を得られるよう工夫したい。	【満足度指標】 生徒が生徒会行事へ主体的に関わり、より積極的に参加し、充実感・達成感を得ることができている。	学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。（生徒によるアンケート）
4 授業準備や自己研鑽の時間を確保しより質の高い授業や個に応じた学習指導を行うため、学校や教員が担う業務の整理、実情に応じた業務分担の適正化を進め、多忙化改善に努める。	① 職員の働き方を考え、工夫して、一人ひとりの子どもに丁寧に関わりながら、学習指導、生徒指導など、各自の業務に専念できる環境づくりを進める。	管理職 各課・室 各学年	関係職員での報告・連絡・相談が円滑に行われており、職員間のコミュニケーションは良好である。多忙化改善も少しずつ進んでいる。しかし、多様な生徒への対応が増えている。また、教員数減少による1人が担う役割も増えている。学年・教科・課を超えて、お互いが様々な形で連携しながら、業務の平準化を図り、さらに多忙化改善を進め、全員のワーク・ライフ・バランスを実現するために、取り組んでいく。	【満足度指標】 全職員が計画的な業務の遂行を意識し、教材等の共有を図るほか、役割分担の見直しで業務の平準化を行い、組織的な学校運営で時間外勤務時間を減らす。	組織が有機的に機能していると答える教員が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。（教員によるアンケート）